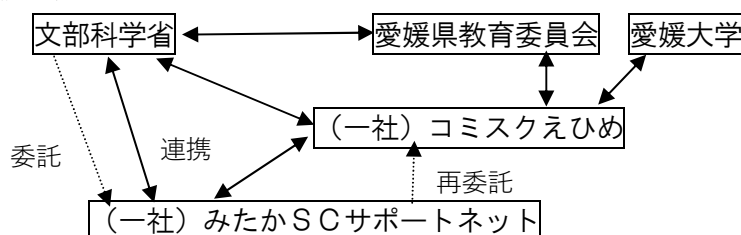


成果報告書

1. テーマ 地域とともにある学校づくり推進フォーラムの開催

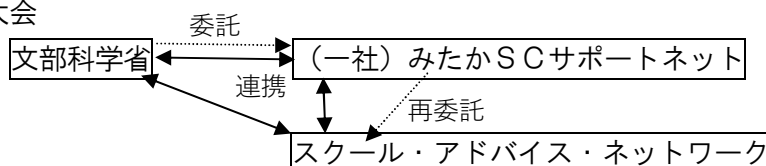
2. 事業の実施体制

●愛媛大会



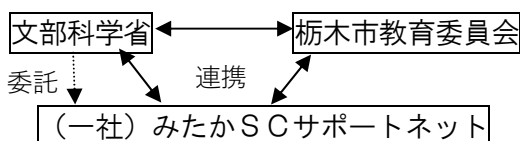
愛媛大会は、（一社）コミスクえひめへの再委託という形で連携・協力しながらフォーラムの企画、実施にあたる。

●東京大会



東京大会は、特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワークへの再委託という形で連携・協力しながらフォーラムの企画、実施にあたる。

●栃木大会



栃木大会は、栃木市教育委員会と連携を図りながら実施にあたる。
また、栃木大会は全国コミュニティ・スクール連絡協議会との共催

- ① 3大会をとおして、この事業についての事務局を一般社団法人みたかSCサポートネット（以下、サポートネットという）に置く。事務局代表者はサポートネット代表理事四柳千夏子とする。
- ② 常に文部科学省担当者とは情報を共有しながら連携を図る。
- ③ 3大会それぞれ、その地域のCSマイスターおよび教育委員会と連携・協力する。
愛媛大会：昨年、愛媛でのCSフォーラムの実績がある（一社）コミスクえひめ（代表理事 西村久仁夫氏（CSマイスター））に以下の業務内容を再委託し、連携・協力する。

再委託内容：県教委および愛媛大学との連絡・調整
 愛媛県内への広報、周知
 事前撮影部分の撮影、編集の手配
 参加者アンケートの集計 等

東京大会：数多くの委託事業や教育フォーラム経験のある特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク（理事長 生重幸恵氏）に以下の業務内容を再委託し連携・協働を図る。

再委託内容：事前撮影に関するマニュアル作成および編集作業

栃木大会：今回の開催地である栃木市教育委員会との連携を図りながら進めていく。
 また、栃木大会は全国コミュニティ・スクール連絡協議会との共催

3. 実証研究のスケジュール

※表中の4ケタの数字は日付（例：0602⇒6月2日）

業務項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約事務 (変更前)	契約 0602 → 0315 (概算払1) (概算払2) 報告								
変更後	変更願 0813 変更届 0914								
メルマガ	メルマガスケジュール表参照								

【愛媛大会】

業務項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
愛媛大会 (変更前)	内容打合せ（決定後すぐ）→ 登壇者への依頼 大会冊子作成 → チラシ作成・県内 → Web 申込み開始 → (7月下旬～8月中) フォーラム開催 (9月下旬～10月上旬) アンケート集計 → (フォーラム終了後1カ月) 動画提出 → (フォーラム終了後1カ月)								
(変更後)	変更願 二次案内 (チラシ) 事前撮影、編集 配信開始 1105～1204 →								

【東京大会】

業務項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東京大会 (変更前)	内容打合せ (7月) → マイスターへの連絡・調整 (8月下) → 大会冊子作成 → Web 申込み開始 → (10月中～下) フォーラム開催 (12月中～下) アンケート集計 (フォーラム後1カ月) 動画提出 (フォーラム後1カ月後)									
(変更後)	マイスター依頼 1012 動画編集 二次案内 (チラシ) 配信開始 1221～0122 →									

【栃木大会】

業務項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
栃木大会 (変更前)	内容打合せ (9月) → 登壇者への依頼 → チラシ作成 → Web 申込み開始 → (12月下～) フォーラム開催 (2021. 2. 5) アンケート集計 (フォーラム後1カ月) 動画提出 (フォーラム後1カ月)									
(変更後)	無観客に変更 → 分散撮影に変更 0113 二次案内 (チラシ) 配信開始 0226～0326 →									

4. 実証研究の実施内容及び実施方法等

(1) 事業全体の計画変更について

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、契約当初より、各開催地都道府県のイベント等の自粛要請など、フォーラム開催にあたっては、定員数や時間の規模縮小など何らかの影響があるものと想定しながら計画を進めていた。しかし、事態は好転せず、規模縮小どころか開催自体非常に厳しい状況に直面した。

一方で世の中は、オンライン会議アプリ Zoom や動画配信サービス YouTube を活用した授業や講演、イベントなど、新しい生活様式に合わせたスタイルでの方法が様々模索されるようになってきた。

同フォーラムについては、会場での開催とオンラインでの開催と両方のパターンを

想定しながら進めていくのは負荷が大きく、加えて、会場での開催については、コロナ感染予防対策を万全に整える必要もあり、愛媛大会の現地実行委員会や文科省との協議検討の結果、8月中旬にはオンライン開催の方向に計画変更することに決定した。

コロナ感染拡大状況や自治体のイベント開催への対応等を鑑み、東京大会（12月開催予定）についても早めの判断を下し、参加者を集めないデジタルフォーラムとすることにした。

8月時点で栃木大会（2月開催予定）については、コロナが収束に向かっていだろうという予測と、開催地である栃木市教育委員会の思いを考慮し、開催は予定通りと考えていた。

10月末になり、収束に向かうどころか感染者数が増加傾向となり、栃木大会の開催方法について協議した結果、無観客にて事例発表者のみが会場に参集し配信する計画を立てた。しかし、1月初旬、1都3県に緊急事態宣言、翌週に栃木県に緊急事態宣言が発出され、会場の使用が不可能となり、急遽、全体会を中止し、分科会の事例発表を各地で撮影収録し、動画を配信することとした。

(2) 愛媛大会の実施方法について

まず愛媛大会の特筆すべき点は、主催が県教育委員会ではなく、愛媛大学であった点である。研究機関が主催することで、データに基づいた基調提案などでその長が出せたのではないかと思う。開催方法の自由度、という点からも意義深い点である。

愛媛大会共催の愛媛大学、コミスクえひめをはじめとする愛媛の関係者と文部科学省との協議および愛媛県の自粛要請等も鑑み、8月にはデジタルフォーラムに計画を変更する方向で合意、動画撮影したものをオン・デマンド配信することとした。プログラム内容については、当初の計画をそのまま生かせるよう時間配分を以下のとおりとした。

表：愛媛大会
タイムテーブル（案）

時間	プログラム内容	講師	会場	配信状況
18:00	配信スタート	★スタート演出		
	開会	※開会式 総合司会：木村		
10:03	開会あいさつ	※開会式 愛媛大学教育長 小園川元夫氏		
10:10	行政説明	※開会式/司会 文部科学省総合教育政策局		
	第一節	※開会式/司会 『愛媛からの風へ学校と地域内協働について』		
10:30	基調提案	※開会式/司会 愛媛大学教職大学院：宮本 行 氏 テーマ①「 について」		
		愛媛大学教職大学院：井出 和宏氏 テーマ②「 について」		
11:10	実践発表①	※開会式/司会 新居市立長川小学校：高橋 美鈴 校長		
11:30	実践発表②	※開会式/司会 宇和島市立南原中学校：木村 真幸 注釈教諭		
11:50	パネルディスカッション	※開会式/司会 テーマ「 コーディネーター：池藤 肇(愛媛大学大学院) パネラー：辻本 浩幸氏(愛媛中学校 校長) 岩崎 新 氏(愛媛県庁内教育政策課長) ※司 会：高橋 美鈴(宇和島市立南原中学校 校長) 高橋 美鈴氏(愛媛大学大学院 特任教諭)		
12:10	第一節終了	※開会式/司会 休憩時間		
13:30	第二節スタート	※開会式/司会 コーディネーター：CSマイスター 森之 氏 スピーカー：CSマイスター 松本 隆江子氏 CSマイスター 増地 裕樹 氏 CSマイスター 高橋 悠希 氏 CSマイスター 岡村 久仁夫氏		
14:30	開会あいさつ	※開会式/司会 終了演出		
14:45	交流会スタート	交流会 演説：オミクスえひめ「両部協議会」 演出/司会：第一節司会者、第二節司会者、実行委員会		
15:30	交流会終了	文部科学省・サポート（YouTube）		

チラシ



【収録方法】

- ・再委託先である一般社団法人コミスクえひめ（代表理事：西村久仁夫氏）にて、現地制作会社を手配。前半の基調提案、事例発表、パネルディスカッションについては、事前撮影。後半の座談会については、11月5日、サイボウズ松山オフィススタジオを借りてライブ配信とした。

【オン・デマンド配信方法】

- ・デジタルフォーラム特設メールマガジンを作成、メルマガ上で視聴URLを告知する形での限定配信。配信には文科省公式YouTubeチャンネルを使用。
 - ◆配信期間：11月5日～12月4日
 - ◆メルマガ登録者数：781件（11月5日時点）
 - ◆全体の総再生回数：4763回（11月5日時点）

この時点ではアーカイブは予定していなかった。

(3) 東京大会

当初計画では、講話による学び合い、対話等CSマイスターの協力をいただく予定だった。参集型でないデジタルフォーラムとなり、内容を検討し、10月中旬、各CSマイスターに協力を依頼した

【収録方法】

- ・パワーポイントの録画機能を利用したり、Zoomの機能を利用して、各人自力で作成してもらった。動画作成にあたっては、再委託先の特設非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワークに撮影マニュアルを作成してもらい、動画作成の経験の無いマイスターにもチャレンジしてもらえるようにした。



【オン・デマンド配信方法】

・愛媛大会と同様

- ◆配信期間：12月21日～1月22日
- ◆メルマガ登録者数：1657件（12月21日時点）
- ◆全体の総再生回数：9401回（1月23日時点）

この時点ではアーカイブは予定していなかった。

(4) 栃木大会（2020 全国コミュニティ・スクール研究大会）

資料2	令和2年度「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 栃木 (2020 全国コミュニティ・スクール研究大会)
【プログラム案】	
9:30	■電話発表(1分科会につき3つの実践事例) ※会場を分けて2分科会同時発表 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■栃木文化会館・大ホール</p> <p>第1分科会(20分×3団体) 「学校と地域との連携・協働による魅力ある学校の姿」</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>■栃木文化会館・小ホール</p> <p>第2分科会(20分×3団体) 「小一貫教育とコミュニティ・スクールによるこころの教育の姿」</p> </div> </div>
10:30	第3分科会(20分×3団体) 「学校と地域で創る地域の姿」
10:45	第4分科会(20分×3団体) 「高専・短大・専門学校・職業訓練校におけるコミュニティ・スクールの姿」
11:45	(……昼食・休憩……)
12:35	■栃木市PR動画(5分)
12:40	■オープニングアクション 「中学生による琴の演奏」
13:10	■閉会行事(栃木文化会館・大ホール) ・挨拶 全国コミュニティ・スクール連絡協議会 会長 貴ノ須 直(録画) 文部科学省 栃木県教育委員会 〇〇〇 〇〇 〇〇(録画) 敬迎のご挨拶 栃木市 市長 大川 秀子
13:50	■シンポジウム (テーマ) 多様化する社会に求められるコミュニティ・スクールの未来像 ～新しい日常における地域とともにある学校の姿～ ◇基調講演(30分) 栃木 智子(立命館大学 教授) タイトル「 」
14:20	◇パネルディスカッション(35分) ◇コーディネーター 栃木 智子(立命館大学 教授) ◇パネリスト 栃木 康志(CSマイスター) ◇パネリスト 井上 真子(CSマイスター) ◇パネリスト 前川 浩一(CSマイスター) ◇パネリスト 竹原 裕美(CSマイスター) ◇パネリスト 後藤 正人(国学院大学栃木短期大学学部長・教授)
14:55	休憩
15:05	◇パネルディスカッション(30分) 地域とともにある「学校づくり」
16:25	■閉会行事 ・挨拶 栃木県教育委員会 教育長 青木 千津子 ・挨拶 全国コミュニティ・スクール連絡協議会副会長 〇〇 〇〇(録画)
16:30	■閉会

愛媛大会配信開始ごろまでは、当初計画通り、参集型のフォーラムを計画していたが、10月末ごろから感染状況が拡大傾向になり、動向を注視、11月26日議事録にあるとおり、参加者を集めず、無観客にて行ったものをオン・デマンド配信することとした(左表のとおり)。

その後、感染状況はさらに悪化し、1月12日の四者協議で、さらなる計画変更を余儀なくされた。

【収録方法】

全体会を中止し、分科会事例発表を岡山地区(2事例)、大阪地区(2事例)、東京地区(2事例)、山形地区(1事例)、

栃木地区（5 事例）に分け、現地で撮影収録し、ケーブルテレビ(株)（栃木市）に編集依頼した。

栃木大会チラシ

【オン・デマンド配信方法】

・愛媛大会、東京大会と同様

◆配信期間 2月26日～3月26日

◆メルマガ登録者数：2240件

(2月26日時点)

◆全体の総再生回数：

(3月14日時点)



(5) アーカイブ配信について

愛媛大会の配信時より、視聴者から「ぜひともアーカイブを」との要望が寄せられていた。教育委員会からは、今後の導入促進のため、学校や学校運営協議会関係者からは、他の教員や委員にも見てもらってコミュニティ・スクールや地域学校協働活動への理解を深めるため、という理由が圧倒的であった。栃木大会配信終了を待つと、契約期間終了後となるため、文部科学省と協議のうえ、「学校と地域でつくる学びの未来」にアーカイブへのリンクページを作成した。

(6) メールマガジンについて

昨年度まで、フォーラムへの参加受付を本法人のホームページに申込ページを作成していたが、今年度はデジタルフォーラムに計画変更したことで、

- ① 動画作成やURLの発行、リンクページの作成などの工程が発生し、流動的な情報をどうやって視聴希望者へ提供できるか？
- ② 動画を限定公開（申し込みした人だけが見られるよう）にするためにどうしたらいいか？

などを検討した結果、メールマガジンを発行することとした。

メルマガスケジュール表参照

発行は以下のとおり

- No. 1 10/13 発行（愛媛大会概要）
- No. 2 10/23 発行（愛媛大会中間報告）
- No. 3 11/2 発行（愛媛大会詳細情報）
- No. 4 11/5 発行（愛媛大会動画配信スタート）
- No. 5 11/5 発行（ライブ配信スタート）
- No. 6 11/30 発行（愛媛配信終了、東京大会概要）
- No. 7 12/8 発行（東京大会詳細情報Ⅰ）
- No. 8 12/15 発行（東京大会詳細情報Ⅱ）

- No. 9 12/17 発行（東京大会詳細情報Ⅲ）
- No. 10 12/21 発行（東京大会配信スタート）
- No. 11 12/28 発行（東京大会、栃木大会概要）
- No. 12 1/29 発行（栃木大会概要）
- No. 13 2/10 発行（栃木大会中間報告）
- No. 14 2/26 発行（栃木大会配信スタート）
- No. 15 3/14 発行（今後の予定、最終回あいさつ）

なお、契約終了後は、3月26日午後5時をもって配信終了（視聴ページ閉鎖）、3月末日をもってメルマガ登録者全データを削除する。

5. 実証研究で得られた成果

- ◆視聴者アンケート
- ◆実証研究委員（CSマイスター）からのコメント
- ◆実証研究委員（サポートネットプロジェクトチーム）の振り返り

等をもとに、以下の項目について成果や課題、今後の強化点などを考察する。

1) 新しいフォーラムの形〈デジタルフォーラム〉について

新型コロナウイルスの感染拡大、という予期せぬ出来事があり、図らずもではあったが、「配信型」のデジタルフォーラムを開催することとなり、昨年度の同事業との比較の上で、新しい形であるデジタルフォーラムの可能性について提案できるようになったことが、今年度の最も大きな成果となった。

当初は、配信型にすることでどれだけ伝えられるのか？どれほどの人が視聴してくれるのか？を危惧していたが、たとえば愛媛大会を例にあげれば、仮にこれまでのような参集型とすると、予定していた会場のカメラホールはコロナ前で約1,000であるのに対して、動画再生回数はすべての動画を合計すると4700回を超える。単純な数字の比較はできないが、アンケートからは、

- ・移動の時間を気にせず、自室で（職場で）、自分のタイミングで、時に動画を止めてメモをしながら聞くことができた。
- ・旅費がかかると、代表者しか会場に行けない。動画配信だと、全員が聞けるし、みんなで聞くことができる。教職員研修、学運協研修、公民館の勉強会等で活用したい。
- ・（大学の教員から）教員養成課程の社会教育の授業に取り入れて学生に学ばせることができた。

など、デジタルフォーラムならではの良さが読み取れる。

また、デジタル化によって、冊子等紙媒体を用意する必要が無い、会場を借りる必要が無

い、など、違う項目に予算をかけることが可能になる。

2) 参集型フォーラムの良さの見直し

すべてのフォーラムが配信型になったことで、改めてこれまでの参集型フォーラムの良さも見直すことになった。昨年度の滋賀大会などのように、開催地県教育委員会にとっては、各市町村への推進のバロメーターにもなりうるし、参加者同士や参加者と登壇者との交流など双方向のやりとり、会場の熱気そのものを感じたい、という声も多くいただいた。確かにデジタルフォーラムでは得られにくい、交流や双方向性、空気感などは大切にしたい点である。来年度以降、コロナ禍の状況によるかとは思いますが、参集型の良さ、配信型の良さをそれぞれ比較検討して、より効果的な開催方法を検討していただきたい。

ただ、やってみて痛感したのは、配信型と参集型の両方を同時並行で企画していくのは仕事量としてかなり大変だと思うので、それぞれに検討チームを立ち上げる等対策を講じる必要があるかと思う。

3) テーマ別フォーラムの必要性

鈴木実証研究委員のコメントにあるように、全国の公立学校のコミュニティ・スクール設置、地域学校協働本部の設置が進み、すでに10年以上が経過しているところもあれば、これから設置に向けての制度整備をすすめるところもある。また、過疎地域や都市部、小規模校と大規模校、高校や特別支援学校など、地域性や学校種による特性も見られるようになり、取組内容や抱える課題、悩みなどはますます多様化してくると考えられる。今後、多様化するニーズに応じて推進していくためには、井上委員の言うような「チョイスできるフォーラム」の企画が必要なのではないか、と思う。

東京大会では、18人のCSマイスターにそれぞれ講話を依頼したが、やはりCSマイスターには推進力があり、一人ひとりの講話に、思いの熱量と実践に基づく知見を感じた。もう少し事前準備に時間がとれれば、マイスター同士で協議し、テーマを細分化してさらなるニーズに応じていくことも可能なのではないだろうか。

4) フォーラム後の推進体制

フォーラム開催の最大の意義は、フォーラム後にあると思っている。赤松委員のコメントにあるように、フォーラムはきっかけづくりであり、開催地はもとより、参加者の地元各市町村や所属の学校で「地域とともにある学校づくり」が進んでいかなければ、どんなに視聴数が多くてもフォーラムが成功した、とは言えない。その意味でいうとデジタルフォーラムには課題があるかと思う。双方向性に弱いために、配信しっぱなしになってしまう点である。

4名の委員の共通の意見として、CSマイスターなどが各地での伴走者として、推進の後押し役になってもらえるよう「フォーラムをやったあと」をつなぐ体制づくりが求められるのではないかと思う。

5) CSマイスターとの連携の重要性

今回、すべての大会を通して痛感しているのは、CSマイスターの重要性である。

愛媛大会は、再委託先でもある西村久仁夫マイスターが、フォーラムの内容企画、だけでなく、愛媛県教育委員会への働きかけ、現地関係者との連絡調整や現地の事例発表者への細やかなフォロー、計画変更にもなう制作会社の手配など単にイベントをこなす委託業者ではできない活躍があったからこそ実施にこぎつけられた。

東京大会は、再委託先でもある井上尚子マイスターとともに、計画変更にもなってやれる形を検討し、動画の作成、編集の企画を立て、依頼の仕方、データの集め方、一人一人のマイスターへのフォロー、統一感のある編集など、高いICTスキルだけではなく、CSマイスター同士だからこそネットワークや、マイスターの知見があるからできるテーマ設定や動画編集などで見ごたえのあるものを作成できた。

栃木大会では、鈴木廣志マイスターが、主催の栃木市教育委員会とのつなぎ役として陰になり日向になり支えてくれていた。

当法人も、四柳本人がCSマイスターであることで、プログラムの検討、マイスターへの連絡調整などでほかの業者には無い強みを発揮できたと思う。今回、度重なる計画変更で気持ちが後ろ向きになりかけたときでも、CSマイスターの皆さんの常にポジティブで前向きな姿勢が幾度となく励みになり、「やれない」ではなく「どうやったらできるか？」に考え方を転換することができた。

地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりの推進については、CSマイスターがその中核を果たしているのので、この事業にも、企画の段階からCSマイスターにかかわってもらうことで効果的なフォーラム内容の検討やフォーラム後の推進体制の強化が可能になると思う。今後様々な委託業者がかかわるようになってもCSマイスターとの連携を図りながら実施できる体制づくりをお願いしたいところである。